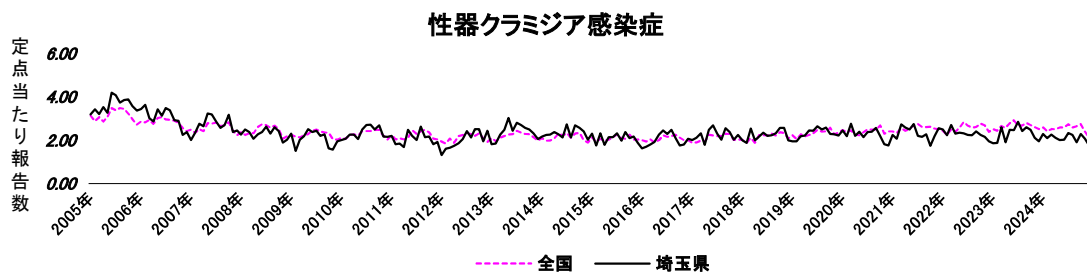


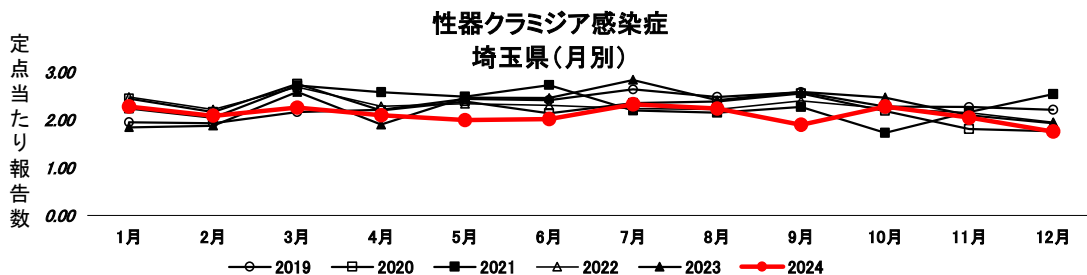
6 性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

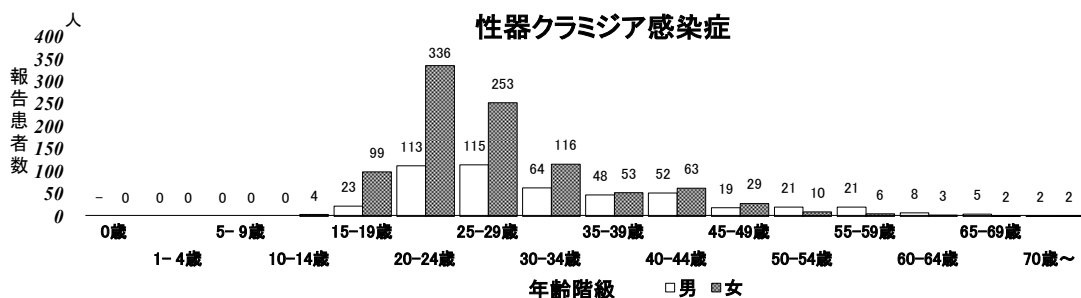
2024年1月～12月の累積報告患者数は1,467人(男性491人、女性976人、性比0.50)であった。定点当たり報告患者総数25.29は前年(27.50)と同水準であった。定点当たり報告数は最小値1.76、最大値2.33の範囲で推移した。男性の報告患者の多い年齢階級は、25-29歳の115人、20-24歳の113人で、男性全体の46.4%であった。女性の報告患者の多い年齢階級は、20-24歳の336人、25-29歳の253人で、女性全体の60.3%であった。



図Ⅱ-25-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：性器クラミジア感染症)



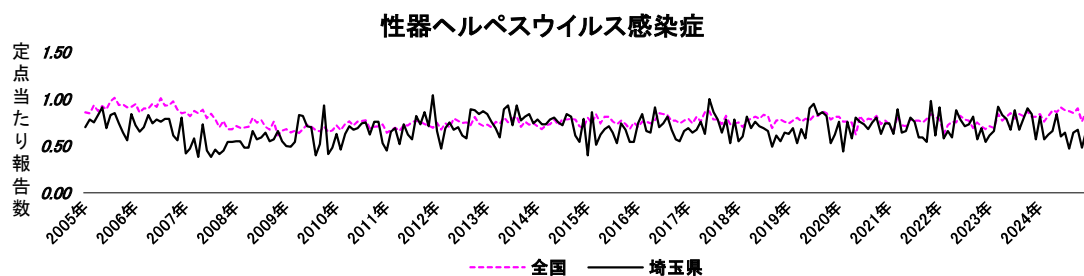
図Ⅱ-25-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：性器クラミジア感染症)



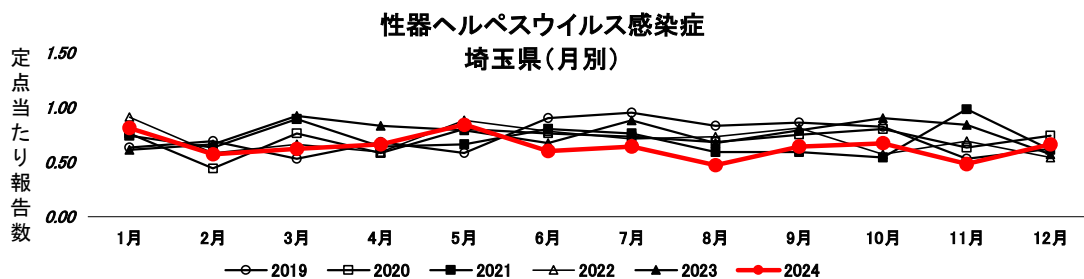
図Ⅱ-25-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：性器クラミジア感染症)

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

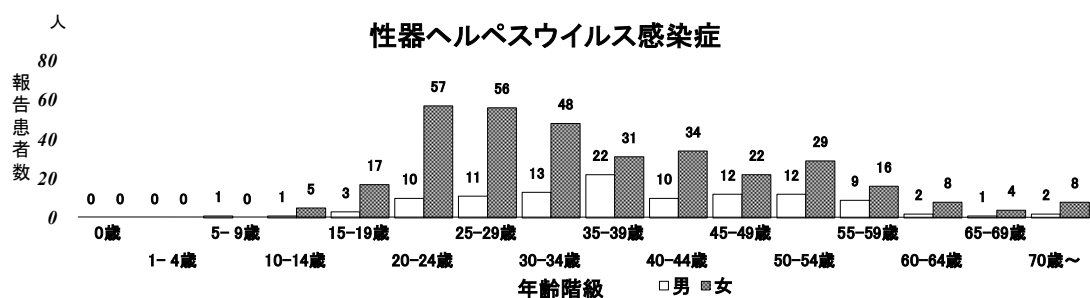
2024年1月～12月の累積報告患者数は444人(男性109人、女性335人、性比0.33)であり、前年(男性99人、女性431人)と比較して、男性は同程度、女性は減少した。定点当たり報告患者総数7.66は、前年(9.14)と比較して減少した。定点当たり報告数は、最小値0.47、最大値0.84の範囲で推移した。男性の報告患者の最も多い年齢階級は、35-39歳の22人であった。女性の報告患者の多い年齢階級は、20-24歳の57人、25-29歳の56人、30-34歳の48人で、女性全体の48.1%であった。



図Ⅱ-26-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：性器ヘルペスウイルス感染症)



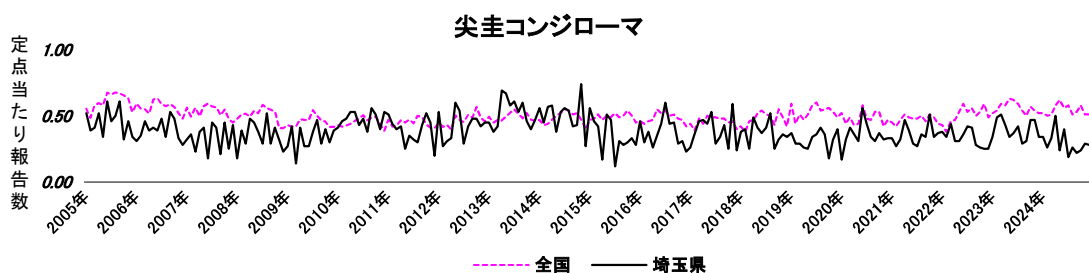
図Ⅱ-26-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：性器ヘルペスウイルス感染症)



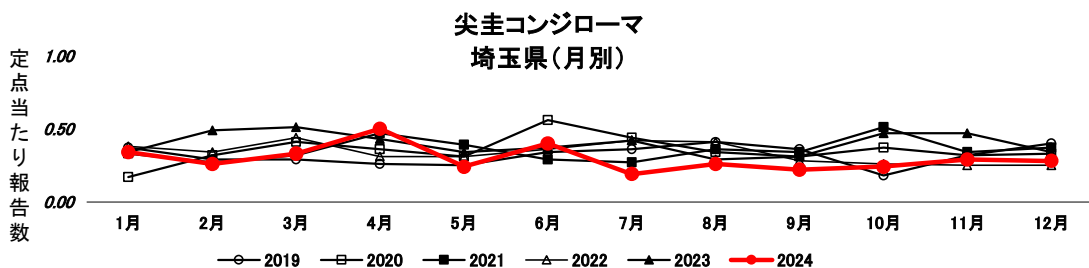
図Ⅱ-26-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：性器ヘルペスウイルス感染症)

3) 尖圭コンジローマ

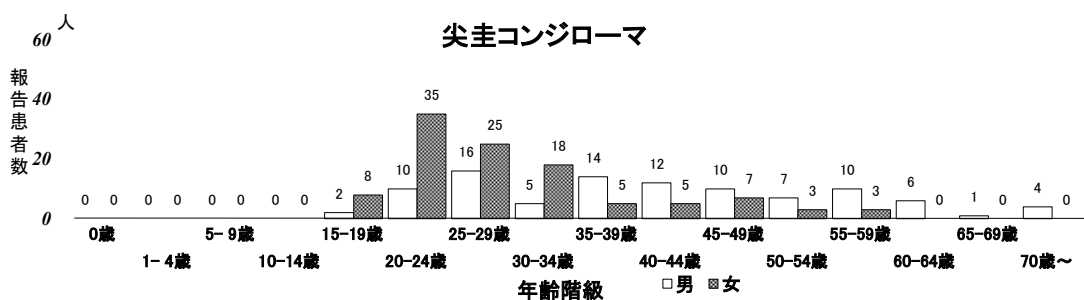
2024年1月～12月の累積報告患者数は206人(男性97人、女性109人、性比0.89)であり、前年(男性114人、女性164人)と比較して、男性は同程度、女性は減少した。定点当たり報告患者総数3.55は、前年(4.79)と比較して減少した。定点当たり報告数は最小値0.19、最大値0.50の範囲で推移した。男性の報告患者の最も多い年齢階級は、25-29歳の16人であり、20-49歳が男性全体の69.1%であった。女性の報告患者の多い年齢階級は20-24歳の35人、25-29歳の25人、30-34歳の18人で、女性全体の71.6%であった。



図Ⅱ-27-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：尖圭コンジローマ)



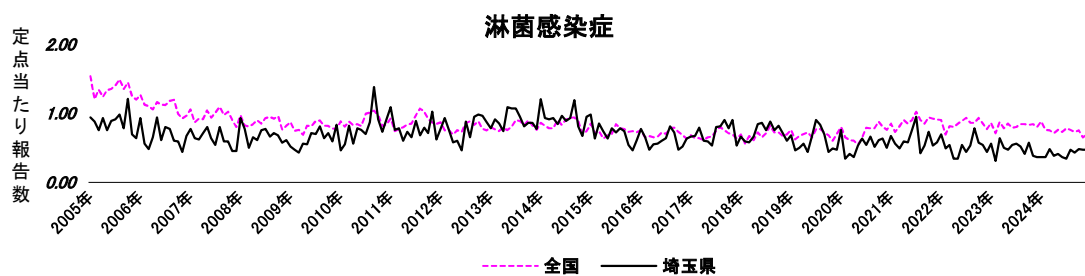
図Ⅱ-27-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：尖圭コンジローマ)



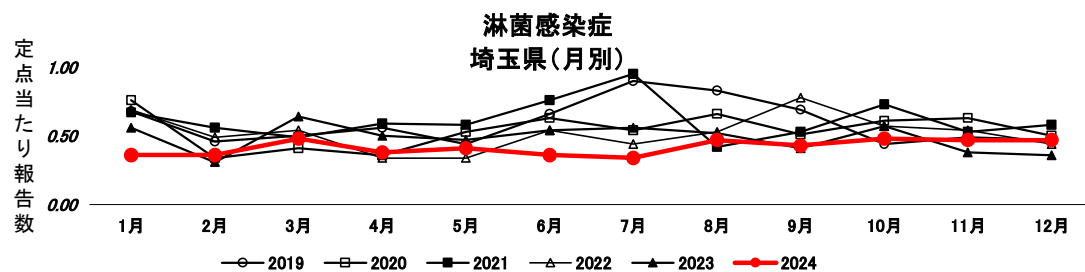
図Ⅱ-27-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：尖圭コンジローマ)

4) 淋菌感染症

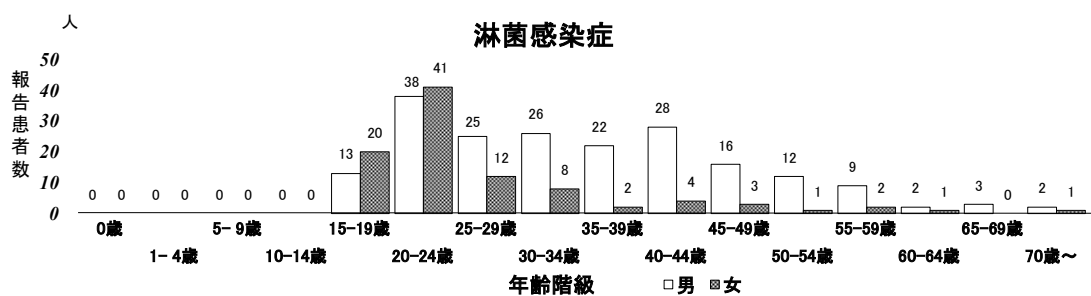
2024年1月～12月の累積報告患者数は291人(男性196人、女性95人、性比2.06)であり、前年(男性244人、女性94人)と比較して男性は減少、女性は同程度であった。定点当たり報告患者総数5.02は、前年(5.83)と比較して減少し、1999年の感染症法施行以降、最小となった。定点当たり報告数は最小値0.34、最大値0.48の範囲で推移した。男性の報告患者の最も多い年齢階級は20-24歳の38人であり、20-44歳が男性全体の70.9%であった。女性の報告患者の最も多い年齢階級は20-24歳が41人であった。



図Ⅱ-28-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：淋菌感染症)



図Ⅱ-28-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：淋菌感染症)



図Ⅱ-28-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：淋菌感染症)